



# 研究所だより

那覇市立教育研究所

那覇市金城 3-5-3

Tel 891-3441 Fax 857-8681

naha-c@naha-c.nahaken-okn.ed.jp

所長 田中 浩三



「キャリア教育」の視点を踏まえた学力向上

所長 田中 浩三

県教育庁は、今年度から向こう五年間の学力向上主要施策「夢・にぬらあ星プランⅢ」を新たにスタートさせました。

その中で注目すべき事は、「キャリア教育の視点を踏まえた学力向上」の取組を掲げていることです。これらを踏まえ、各学校では試行錯誤しながら実践の工夫を凝らしている段階ではないでしょうか。

本研究所ではこのような学校の実情等を考慮し、先日「キャリア教育指導実践講座」を開催しました。講師として本施策の策定に関わった金城小学校校長・黒木義成氏（前義務教育班・学力向上推進班長）を招聘し、趣旨や進め方等について講話を頂きました。

そこで、本講話の中から本題に関わるいくつかの事項を情報提供したいと思います。

(一) 本県の学力向上の取組課題の一つに、「児童生徒の学習意欲をどのように高めるか」を工夫することが重要。

(二) そのためには、これまでの「わかる授業」の構築や授業改善に努めるとともに、さらにプラスαとして「キャリア教育の視点を踏まえた授業づくり」が大事である。

(三) その授業づくりとは、「授業の中で将来の夢や希望を形作る学習」であり、そのためには「授業内容と社会とのつながりが実感できる授業」を実践することである。

(四) 「社会とのつながりが実感できる授業」とは、授業者の専門的知識を活用した授業であり、具体的には次の二点が考えられる。

① 学級担任の専門的な知識を活用した授業

② 地域やその道のプロ（地域教育資源）を活用した授業  
※ 金城小の理科授業の中で、外部講師を活用した実践事例も紹介して頂きました。

(五) 専門的な知識を活用した授業では、児童生徒が「なりたい自分」を広げ、学ぶ意義や働く意義を実感できることにつながる。さらに、「なりたい自分」になるために努力の必要性を感じ、明確な目標を持って、進路選択を広げることが「なれる自分」を広げることにつながる。

(六) このような授業を実践するには、「授業と社会とのつながり」の教材研究をして、「どの単元のどの内容であれば地域人材が必要か」を年間指導計画に位置づける。

以上のようにまとめてみたものの、黒木氏の意図を充分伝えきれない部分もあるかもしれません。しかし、各学校での取組の参考になれば、と言いついでご紹介します。

## 98期 教育研究員「検証授業」

6/29(金) 小祿南小 奥間 ナリ子 研究員  
テーマ「確かな読みの力を身につける説明文の学習指導の工夫」  
～要点指導と文章構成の可視化を通して～



指導案検討会でのアドバイスのおかげで時間内に終わることができた。前時で要点まとめをしっかり押さえることができれば、文章構成にもスムーズに取り組めることができることを実感した。

これまでの研究の成果を検証するために、検証授業を行いました。  
また、授業研究会では、活発な意見が交わされ充実したものとなりました。

7/2(月) 大名小 上原 学 研究員  
テーマ「自己肯定感を高め、思いやりの心を育てる指導の工夫」  
～自他のよさに気づき、認め合う対話を通して～



友だちのよさを付箋紙を使って伝え合い、対話を深める中で、児童はお互いのよさを認め合うことができました。研究理論を検証する授業で緊張しましたが、児童の変容を実感できました。これから結果と考察をまとめていきます。

7/10(火) 識名幼 金城 恵 研究員  
テーマ「幼児の心身の健康を育むための食育活動」  
～食への興味・関心の持てる子の育成を目指して～



こんなに時間をかけて保育の内容を練り、実践することはなかなかできない機会なので、とても良い経験となりました。検証にたどりつくまでに、かなり悩み・苦しみました。やってみて本当によかったと思っています。

7/5(木) 安岡中 新垣 真 研究員  
テーマ『「伝え合う力」を高める「話すこと・聞くこと」の学習指導の工夫』  
～言語活動にKJ法と座標軸法を取り入れた参加型学習を通して～



マウスの接続の不具合などハプニングもあったなか、臨機応変に対応してくださった指導主事と安岡中学校の先生方に感謝しています。指導助言を参考にしながら、検証を進めていきたいと考えます。

